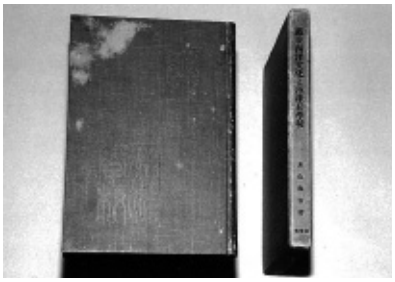
THE YONEYAMA UMEKICHI MEMORIAL HALL REPORT

Rotary 公益財団法人 米山梅吉記念館

米山梅吉記念館 館報 秋号 2022 Vol.40

JR沼津駅前に建立された江原素六銅像

県立沼津西高書道部による「克己制欲」



米山書『幕末西洋文化と沼津兵学校』

克己制欲

2022年5月15日、生誕180年、没後100年を記念してJR沼津駅北口に江原素六の像が建立された。銅像は、長泉町の彫刻家堤直美氏が制作、台座の題字は静岡県森町出身の書道家杭迫柏樹氏（京都伏見RC）によるものである。

江原は徳川家の静岡移封後沼津に移住し、旧幕臣の士族授産事業として制靴業、牧畜業、植林業、茶の輸出会社（積信社）などを設立した。素六が事業をはじめてから沼津でもお茶の栽培が盛んになり、グラント将軍が来日した折には視察にきている。また、静岡県会議員、衆議院議員、貴族院勅撰議員など政治家としても活躍した。

江原が力をいれた活動の一つに教育がある。旧幕臣の子女の教育のための沼津兵学校、沼津中学校、駿東高等女学校（現:静岡県立沼津西高等学校）などを設立した。東京には麻布学園も創設している。

米山梅吉は沼津中学校に通っていたが、この時の校長が江原であった。「斯くて沼津は學問の地として再興するやうになり、之が經營に與かり當初の校長となったのは江原であって、校舎も當時としては驚くべき宏壯なる様式の建築をなし、新たに沼津に一美觀を添へたのであつた。沼津中學は其特色として大いに英語を盛んにせんとし、當時驚くべき高給を以て外國教師をさへ招聘した」（米山梅吉著『幕末西洋文化と沼津兵學校』より）和・漢・洋・数学など学ぶ科目は多岐にわたり「潑溂たる活氣校の内外に滿ちてゐた」（同上）。

「我々人間は物質上の富を以て、決して安心立命は得られるものでない」（江原素六著『急がば廻れ』より）と言っていた江原の座右の銘「克己制欲」は、多方面への事業に関わり活躍していたものの、質素な生活をしていた江原の生き方そのものであった。そんな江原の姿は、梅吉少年の心に大きく響いたことであろう。

春季例祭 報告

■ 日　時／2022年4月23日（土）午後2時
■ 会　場／米山梅吉記念館ホール

開会前墓参

講　演

【演題】「富士山と日本人」
【講師】静岡県富士山世界遺産センター館長
元文部科学大臣　遠山敦子氏

理事長あいさつ　松村友吉

春季例祭 講演

富士山と日本人

静岡県富士山世界遺産センター館長
元文部科学大臣　**遠山 敦子** 氏

ご紹介いただきました遠山です。現代の話題を考えますとウクライナ問題やロシアの暴挙を話題にすることが適切なのかもしれませんが、それはさておき日本人として富士山と向き合おうと「富士山と日本人」という大きなテーマを選びました。

はじめに日本人にとって富士山とはどういうものかということを考えてみたいと思います。日本に富士山がなかったらどうなるか、皆さんどう思われますか。もし富士山がなければ、日本は少々平凡な小さな島国で終わったということだと思います。夏目漱石が三四郎の中で「もうじき富士山が見えるけれど日本には富士山しかないんだ」と言い方をしています。私も中学1年の秋に、父の仕事の関係で静岡に転居いたしました。その前は山が全く見えない三重県の桑名で育ったわけですが、富士山が見える静岡に参りまして、富士山は雪をかぶってなんとも荘厳な姿でありました。その時はじめて霊感にうたれたようになりまして「富士山に対峙して恥じることのないような人生を送りたい」、と生意気にも中学生の時に思った次第です。富士山がなかったら私にとって人生の基軸がなかったのではないかと思います。

第一に、やはり富士山は人びとのあこがれ、憧憬の対象であるといえます。新幹線に乗ると皆さん富士山側にお座りになりますよね。私の友人たちも「今見えたぞ」とそのたびにSNSで送ってきます。昭和天皇も同じような感じをお持ちになった「ふじのみね雲間に見えて富士川の橋わたる今の時の間惜しも」橋の間に見える富士山をもっともっとみていたいなと。あの謹厳な昭和天皇もこんなふうに感慨をお持ちになったということで身近に感じるところでございます。本物の富士山のみならず全国にある様々な富士、薩摩富士とか蝦夷富士とか各地にございましてその数がなんと263もある。富士山が全国民の憧れの対象だといえると思います。

第二は、心のよりどころではないかと思います。尊崇の対象富士山を見て手を合わせる、という気分になる。その証明に万葉集の山辺赤人がよんだ長歌「天地（あめつち）の
分かれし時ゆ　神（かむ）さびて　高（たふと）く貴き　駿河なる
富士の高嶺（たかね）を　天（あま）の原　振り放（さ）けみれば　渡る日の
影も隠（かく）らひ　照る月の　光も見えず　白雲も　い行

講師ご紹介

きはばかり　時じくそ　雪は降りける　語り継ぎ　言ひ継ぎ行かむ　富士の　高嶺は」つまり天地が分かれたときから高く貴い、駿河にある山といってくれていますね、駿河人としてはありがたいです。私はこの長歌が富士山を詠んだ最も格調の高い作品だと思います。

第三は、日本人の自然観の源泉ではないかと考えます。かつて哲学者の梅原猛さんと川勝知事と鼎談をやったことがありまして、そのとき先生が「日本では草木までが仏性をもっている。生きとし生けるものすべて仏性をもつ。人間ばかりか動植物まで救われる。そういう洗練された思想は世界に類がない。自然を支配する文明から自然と共生する文明へ変えていく必要がある、日本はその先頭にたつべき」ということを明確に言っておられまして、そのシンボルに富士山があると。国土は富士、というのが梅原哲学の真髄ではないかと思います。これは夕日に輝く富士山ですが、上皇陛下がかつて詠まれた歌に「外国(とつくに)の旅よりかえる日の本の空赤くして富士の峯立つ」外国から帰ってくると雲間に富士の峰がたち、ああ日本だと思うと見事に表現されました。憲法上象徴の天皇が日本の国土のシンボル富士山をこのように詠っている、非常に意味深い歌だと思いました。恐らく皆さんも地方から帰ってくるとき静岡に近づいてくると富士山の見える側はどっちだと。それくらい富士山は日本人にとっての日本のシンボル的存在だと思います。

これからは日本人にとっての富士山というものを、自然、信仰、文学、絵画、くらしという五つの角度から考えてみます。

まず日本人にとって精神的な存在の富士山ですが、いかにあの端正な美しい姿ができたか。科学的知識をもって物事を考えることは大事であります。富士山は地球ができた最初からあの姿をもってたたずんでいたわけではありません。日本列島はユーラシアプレートと北米プレート、そして二つの海洋プレートである太平洋プレートとフィリピンプレート、4つのプレートが交わる特異な場所でこんな場所は世界にもないわけです。フィリピンプレートの上には伊豆小笠原火山弧がありまして毎年4センチずつ北上しています。富士山は100万年前から活発に活動しており天城山や愛鷹山などこちらは火山の噴火が終わりましたが、富士山はこれらに引き続いて10万年前から活動を始めた若い火山です。

富士火山のなりたちは約15万年前、小御岳と先小御岳の火山の活動がおきた。このころ箱根や愛鷹あたりも激しく噴火した。そして10万年前から17000年前に古富士火山の活動がでてきます。爆発的な噴火を繰り返し、箱根火山は激しい噴火を何回も繰り返した。今も

箱根で温泉が湧いているのはこの噴火の活動のためです。そして17000年前から2900年前、新富士火山がでてきました。そのころ富士山は2つの峰があった。2900年前に火山が一つ崩れて今の御殿場のあたりまでずうっと溶岩が流れてきました。そして新富士火山が残ったわけです。これが富士山になりました。最後の山頂噴火は約2300年前です。それ以降は、マグマが上までいかないで横から噴き出すようになった。

一番新しいのが1707年の宝永火山であります。海底から上がって3776メートル一気に上がるわけですが、独立峰として世界でも珍しい。富士山のすぐ下に駿河湾があり、駿河湾からずうっと立ち上がっているわけです。駿河湾の最深部は2500メートル、両方あわせて6300メートル一気に上がっている、そういう特異な火山であります。富士山は玄武岩のみで成長が非常に早い。そのために広大な敷地をもっている。富士山には川がない。富士山に降った雨や雪は新富士火山の隙間から下に流れ込み水を通しにくい地層に流れ溶岩の先で湧水となる。

このような自然であるということを前提にこれからお話します。富士山の美しさ神々しさから日本人の信仰が生れるわけです。信仰の歴史で覚えておいていただきたいのが遥拝です。原始古代富士山は噴火していたので人々は近づくことができず、はるかに拝んで鎮火を祈っていた。中世近世になると登拝。順次宗教者、一般者が登っていくようになった。その後巡拝となります。

一番古い富士山をめぐる人々の住まいは千居(せんご)遺跡があります。4000年前の石組みで富士山に向かって石を並べて竪穴の住居遺跡がでてきました。4000年前縄文時代です。つづいて遥拝です。火山活動の活発化から鎮火の祈りのために浅間大神を鎮座する。浅間大神を祀った山宮浅間神社が一番古い。ここは社がなく、富士山にむかって礼拝をする。この周囲は溶岩礫を使った石塁があり、石列は富士山にむかっています。富士山は直接遥拝するものであったことがわかります。山宮浅間神社は今も残っていますが、これが移ったのが富士山本宮浅間大社です。この浅間大社は全国に2000～2500あるといわれている浅間大社の大本であります。富士宮市にあり私がいる富士山世界遺産センターはこの第一鳥居の中にあります。この大社は二階建てになっており、二階建ての浅間神社大社は他になく、大社たる所以です。徳川家康も大事にしてきました。湧玉池、浅間大社の横に水が湧くところがあり1日約20万トン。かつてはここで禊をして富士山に登った。

次は登拝です。これは修験者とよばれる宗教者が山岳を修行の地として富士山に登りはじめた。数々の伝説をもっている末代上人が1149年頃登拝をして、山頂に大日寺をかまえて経典を埋葬しました。それまで人々が登った事のない富士山に登り、お寺を建て経典を埋葬した。そこから登拝が始まった。これは村山浅間神社の富士山開山式の護摩祈祷です。勢いのある祭りですが、これも本尊が富士山です。村山浅間神社は末代上人が、上に寺を建てて下に興法寺をつくったことからきています。若者たちが毎年4月10日に水取りをします。

そうこうするうちに登拝の大衆化がおこります。14世紀以来、導者といわれる一般の信者が富士山へ登拝するようになって山頂の遺跡群が整備される。そして導者のお世話をした山伏や御師の活動が活発になります。御師の活動は、富士吉田市に御師の町があり、そこで富士山について学んで禊をし、精進料理をいただいて水とりをして、富士山に登る人を助ける。こうした信仰登山の様子をかいた富士曼荼羅図というのがあります。これは国の重要文化財で、浅間大社にあります。

巡拝は、17世紀の江戸時代に富士山、人穴等で修業した長谷川角行を祖とする富士講の一派が誕生したことから始まります。江戸八百八町にたくさんの富士講ができ、自分は行けないけれど代表者が行くという富士講です。角行の修業をした場所を聖地としてそこをめぐる巡拝が広まった。

明治時代の廃仏毀釈でお寺や仏像が撤去させられるという愚かしい政策でした。お寺が神社になってしまい、そのおかげで山伏や御師も廃業し、精進潔斎が簡略化されて女人禁制の慣習も撤廃され、今は山頂までいけるわけです。今や信仰心で登るのではなく観光でというケースが多いのですが、多くの人が日の出を見て手を合わせるというのをみるとあれも信仰の意識ではないかと思います。

次に富士山を詠う、を考えてみたいと思います。日本人が富士山をどのようにとらえて感動を表したかをみたいと思います。山部赤人がさきほど紹介した長歌のあと「田子の浦ゆ打ち出でて見れば真白にぞ富士の高嶺に雪は降りける」を詠んでいます。山部赤人は八

世紀の歌人で、この頃田子の浦は富士川の西側で波がうちよせてきて薩埵峠をこえて道を辿って富士川の方へ出た、ここでいきなり目に飛び込んできた富士山をみて感動したということです。万葉集にはこのほかに6首の富士山を詠んだ歌があります。どちらかというと燃え盛る恋の思いを富士山の噴火にたとえた歌が多い。

古今集以降もあります。平安時代の歌物語として有名な伊勢物語です。業平一行が富士山をはじめて見たときに大変驚いた、旧暦5月のつごもり、今の6月から7月中旬ですが、暑い中でまだ雪をいただいている富士山を季節をわきまえない山だ、と詠っています。

新古今集の中には「風になびく富士の煙の空に消えて行方も知らぬわが思ひかな」西行法師です。西行はのちにこの歌を生涯最高の出来としたそうです。蕪村「不二ひとつうづみ残して若葉かな」若葉の季節に雄大な富士山を詠んだ。私は蕪村が大好きです。その他一茶や正岡子規も詠んでいます。新田次郎は直木賞作家ですが、20作以上に富士山を書いています。

日本人が富士山の姿をどのようにとらえどのように描いたか。一番古いものは、1069年聖徳太子が黒い駒にのって富士山を越えている絵です。雪舟、蕪村も描いています。北斎はプルシアンブルーを使い波を描いた。ヨーロッパの芸術家に大きな影響を与えた。ドビュッシーはこの絵を壁にかけて「海」を作曲しています。横山大観は富士山を1000枚以上描きました。身近な所では銭湯にも描かれました。疲れを癒して極楽浄土を夢見る。日本人にとっての富士山はどういう存在か、もし富士山がなければこれだけの豊富な文化、産物、人の行き来がなかったであろうと、富士山に心から感謝をしているところであります。

私のいる富士山世界遺産センターも池に映ると富士山の形になります。本年末、創立5周年の記念行事をやる予定です。また2013年に8年かけて世界遺産になりました、来年10年です。世界の聖なる山の人達をよんで聖なる山とは何か、の国際シンポジウムをやろうかと考えています。

何千年何万年の単位でいえば富士山が今の形をとどめるかはわかりませんが、私たちが生きている間は美しさは保てるのではないかと。富士山を精神の基軸の一つとして清々しい人生を歩みたいと思います。

米山梅吉が詠んだ富士山

昭和六年

富士の嶺
富士の嶺の夕空遠くふくらかに
今日はいちじろし雪はましけむ

昭和八年

富士が嶺
あかつきの神富士高嶺おのづから
浄き心を人もわれもともに

いただきの雲のゆくまを待ちてあ
れば又一群の雲寄せ来る

不二の根は雪の社のお屋ね哉
法師さび麥ふむ人や不二の裾
雲の峯は一合目より不二の峯
温泉にうつる涼しき影や裸不二
もう消えぬ不二の雪なり秋近し
戰國の鏡餅とて今朝の不二

ユタ州立大学所蔵「満州問題について」

国際ロータリー第2520地区
水沢ロータリークラブ
佐藤　剛

現在に至るまで（プロローグとして）

奥州市内にある斎藤實記念館に何度目かの訪問の際、学芸調査員をされていたSさんから「ロータリークラブの方ですか?実は館には斎藤春子さんのロータリーマークの刺繍が施された帯があるのですよ。ご覧になりますか?」との一言から、現在に至る全ては始まりました。見せて頂いた帯は当クラブから最初のガバナー（1970-71年度）となった、お医者様だった故桜井文彦先輩の奥様が春子夫人から「ご主人がガバナーになったのなら、貴女はこれを締めたらいいわ。」とお借りし、春子夫人逝去の際、記念館に桜井家から返還されたものでした。実に品の良い品で驚いた事を今でも覚えています。

その帯の存在から、斎藤實閣下がロータリアンであり、東京ロータリークラブ名誉会員であった事を知りました。何か帯以外に無いのかとの事で、代々の学芸調査員さんから見せて頂いた収蔵品リストを眺めていると、1927年当時の京城ロータリークラブの会員手帖が掲載されていました。手帖は煉瓦作り収蔵庫2階の多くの資料の上にありました。開いてみれば当時の会長は京城大学医学部長の志賀潔さん。赤痢菌発見で有名な方で驚きました。朝鮮名の方も記載されておりましたが、彼等の素性を明かせば対日協力者ということで子孫が財産没収等の憂き目に遭う可能性があり、調査に来る韓国人には決して見せないよう記念館職員に注意喚起をした次第です。ということで閣下のロータリアンの足跡は、春子夫人の帯と公開出来ない手帖のみの期間が暫く続きました。

そこに風穴を開けて下さったのが、平成25年夏に来日したテキサスからの短期青少年交換の二人の女子高校生でした。当日は写場を営むロータリアンの粋な計らいで、御姫様とお侍の扮装での写真撮影の日でしたが10名近い参加者の着付け等に時間が掛かっていたので、当日開催された斎藤實顕彰会理事会に顔出しを兼ねて二人を記念館にお連れしました。当時の佐々木館長から「会議に出ても解らないと思いますので書庫にお連れ下さい。そこには英文文書も多くありますので」とのお誘いを受け、日本海軍船舶の階段を模した、急で狭い階段を上がり、英文記載本コーナーに行くと、しばらくして一人が「あっ、ロータリーと書いてあります。」と私を呼ぶではありませんか。暗がりで眼鏡も忘れた為、写場に二人を戻し、再度懐中電灯と眼鏡をして、その場に行くと、なんと1930年の国際大会公式議事録、更にはThe Rotarianの1920年代末から1930年代初頭のものが色褪せずに残っていました。これら貴重な資料群を二人のテキサスからの女子高生が再発見して下さった事に斎藤閣下も草葉の陰でお喜びになったと思います。（資料発見の件は米山梅吉記念館館報Vol22にて紹介）

議事録には徳川家達殿下の全米に放送され大きな反響があった演説内容も記載されており、また米山翁の挨拶文を含む貴重な資料であることが判りました。The Rotarianにも斎藤閣下が元老西園寺経由の勅命で首相に指名され「混迷の日本の舵取りは斎藤に

託される」なる記述が写真と共に「今月の誉れ」コーナーに掲載されており、感銘を受けました。また京城ロータリークラブのチャーターナイトの写真と解説、京都ロータリークラブが当時既に世界大会への意欲を見せていた記事等、先人ロータリアンの気概を大いに感じさせてくれる記載内容に胸を躍らせました。

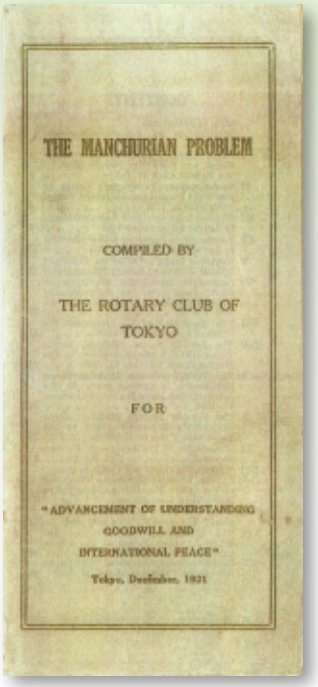
その後、関連のありそうな写真や文書も若干見つかり、館長と「斎藤實とROTARY展」なる企画展も開催可能という話が盛り上がり、平成26年2月開催の運びとなりました。その前には第2520地区地区大会で、当時館長だった菅原志保子さんの解説付きで帯がロータリアンの前で公開されました。菅原元館長は現在斎藤實顕彰会会長として顕彰活動に日々勤しんでおられます。企画展開催に当たっては、当時東京ロータリークラブの壬生基弘会長より挨拶文を頂戴することが出来ました。壬生様の祖父が斎藤閣下と昵懇だったとのご縁で、挨拶文を寄せて頂いたことで、企画展には品格を与えて頂き、一同感謝・感激した次第です。壬生会長の旧姓は東久邇宮であり、祖父は東久邇宮稔彦王です。

企画展開催に当たっては、当時まだ門外不出だった、東京ロータリークラブさんが100周年用に収集していた様々な貴重な資料もお貸し頂きました。中でも動画の存在には驚かされました。1933年の第70地区大会には首相官邸でのお茶会に来たロータリアンにお辞儀でお迎えする斎藤夫妻も映っていたのです。動くご夫妻の映像は記念館関係者も初めて目にし、大いに感動した次第です。また米山梅吉さん、ポール・ハリス来日の模様も映っていました。

また、1936年に東京ロータリークラブが世界に向けて発信した映画もあり、英語で堂々と東京ロータリークラブの現状を説明する紋付き袴姿の小松隆さんの映像を観て、先達ロータリアンの志高き姿に大いに胸がときめきました。映像の最後は「関東大震災から見事に復興を遂げた東京に是非お越しください。精一杯おもてなしします。」との自信と誇りに溢れた小松さんの言葉で締め括られております。東日本大震災を経験した者として、いつか同じようにとはいかずとも英語で世界に「見事に復興を遂げた日本の東北にお越しください。」と言えたらと思い、思わず目頭が熱くなりました。

その後、後に『米山梅吉ものがたり』を書かれた柴崎由紀さんが当市を訪問され、斎藤記念館にもお立ち寄り頂き、資料収集をされたことで、彼女とも知遇を得る機会に恵まれました。本に掲載された斎藤ご夫妻の写真はその時に収集されたものです。その後、柴崎様には様々ご教授を賜り、本当に感謝しております。

時は令和3年12月も大晦日近い日に、小松隆さん関連の資料をインターネットで探しているうちに、偶然にもユタ州立大学にある表題の文書を発見しました。読み進めていくうちに、これはもしかすると日本には既に現存しないものかもしれないと思い、小松さんに詳しい飯森明子先生、柴崎由紀さん、米山記念館の市川真理学芸員に、この文書について尋ねたところ、御一同から、未知の文書であり、存在そのものに驚嘆といったメールを頂戴しました。関東軍による満鉄線路爆破事件に対する世界中からのバッシングを何とか止め、国際社会からの孤立を阻止しようとしたロータリアン達、そして時の政府、碩学達の声が綴られているのを目の当たりにし、これは訳して日本Rotaryの歴史に刻んでおくべきと確信し、令和4年お屠蘇気分を過ぎた頃から必至で翻訳に入りました。作業に当たっては国際ロータリー第2520地区ガバナー事務所の佐々木真奈美、蛇口光子、西村鈴子の3事務局員に大変な協力を頂戴しました。本来の業務に加えての仕事だったので御


THE MANCHURIAN PROBLEM

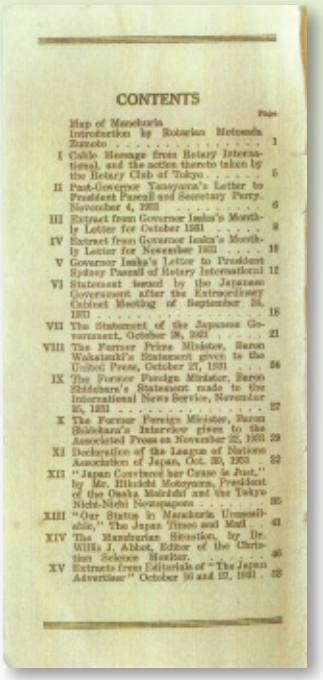
COMPILED BY

THE ROTARY CLUB OF TOKYO

FOR

"ADVANCEMENT OF UNDERSTANDING GOODWILL AND INTERNATIONAL PEACE"

Tokyo, December, 1931


CONTENTS

Page.
Map of Manchuria
Introduction by Rotarian Motosuke Zumoto 1
I Cable Message from Rotary International, and the action thereto taken by the Rotary Club of Tokyo 5
II Past-Governor Yamayura's Letter to President Pascall and Secretary Perry, November 4, 1931 6
III Extract from Governor Inaba's Monthly Letter for October 1931 9
IV Extract from Governor Inaba's Monthly Letter for November 1931 10
V Governor Inaba's Letter to President Sydney Pascall of Rotary International 12
VI Statement issued by the Japanese Government after the Extraordinary Cabinet Meeting of September 24, 1931 18
VII The Statement of the Japanese Government, October 26, 1931 21
VIII The Former Prime Minister, Baron Wakatsuki's Statement given to the United Press, October 27, 1931 24
IX The Former Foreign Minister, Baron Shidehara's Statement made to the International News Service, November 25, 1931 27
X The Former Foreign Minister, Baron Shidehara's Interview given to the Associated Press on November 25, 1931 29
XI Declaration of the League of Nations Association of Japan, Oct. 30, 1931 . 32
XII "Japan Convinced her Cause is Just," by Mr. Hikichi Motoyama, President of the Osaka Mainichi and the Tokyo Nichi-Nichi Newspapers 35
XIII "Our Status in Manchuria Unassailable," The Japan Times and Mail . . 41
XIV The Manchurian Situation, by Dr. Willis J. Abbot, Editor of the Christian Science Monitor. 46
XV Extracts from Editorials of "The Japan Advertiser" October 30 and 31, 1931 . 52

ユタ州立大所蔵の「満州問題について」

負担お掛けしたことを、この場を借りてお礼を含めお詫び方々感謝申し上げます。おそらく第二次世界大戦末期の大都市に対する空襲で、この文書の残部はほぼ消失したと思われますし、もし残っていたとしても文書に出てくるロータリアンが戦犯にならぬよう、終戦と同時に焼却処分されたのだと思います。現在存命なら100歳位のロータリアンの一部では存在は知られていたかもしれませんが、ほぼ誰にも知られぬまま、ユタ州立大学に眠っていたのです。後日、大学時代にユタ州立大学で学んだ、東京西ロータリークラブの藤原治氏から、当時ユタ在住日本人の為に発刊されていた地元紙の方々が入手したものを大学に寄贈されたのかもしれない、との興味深い話も頂戴しました。

2月20日過ぎ、翻訳、ガバナー事務所の3職員による誤字脱字訂正及び校正も終わり、ほっとしている矢先の24日。ロシアによるウクライナ侵攻なる信じられないニュースが飛び込み、世界を震撼させました。

このニュースを耳にし、一心不乱に翻訳作業をしていたのは斎藤閣下が草葉の陰から私に白羽の矢を立て、命令した事だと想像しました。自分でいうのも変ですが、翻訳作業の速度は普段とは次元の違う早さで、一つの文章を訳し終わる度に、メールで送った先の、柴崎さん、市川さんも驚いていたようでした。

エピローグ

斎藤閣下からは「今ロシアでは君が訳したような話で溢れかえっているはずだ。時の政府はそうせざるをえないのだ。だからロシア政府を攻めても、ロシア国民まで同じ目で見てはいけない。」と諭されている感覚を抱きました。

訳し終わって脳裏に浮かんだのは、なぜ皆同じ様な論調だったのだろうという残念感です。後から後から似たような文章の羅列では読む側にとって苦痛で、途中で読むのを止めたかもしれないとの思いでした。また当時の中国による違法行為も列記されてはいるものの、現場の写真、イラストをなぜもっと多用しなかったという事も感じました。百聞は一見に如かずなる言葉をどうして具現化しなかったかが残念でなりません。阪神淡路大震災、東日本大震災等、天災でも、世界に散見される戦争・紛争でも、残虐な写真（例えば御遺体）はマスコミで公表しない姿勢が当時からみられている事に、日本人の美意識だとしても世界には通用しない、わが国固有の横並びの妙な常識を感じてしまいました。

残念感はあるものの、当時発足からまだ10年しか経過していない日本のロータリアン達の思いがひしひしと伝わってきました。また彼等は今より遥かにグローバル感覚や、組織のルールに対するコンプライアンス感覚も素晴らしく、ロータリーの名の元にロータリアンに上下はなく平等であるとの確固たる信念を感ずる事が出来ました。またアメリカに多くの友人をお持ちの頭元さんや小松さんが、どんなに心を痛めていたかを思うと、とても切なくなりました。本文書と直接関係はありませんが、後に国際連盟脱退の任を負った松岡洋右氏に対しても同情を禁じえません。アジア諸国に領土を広げていた当時の日本、そして日本人が今よりグローバルな感覚を抱き、世界と対等に対峙しようとしていた姿をこの「満州問題について」は感じさせて下さいました。様々なアドバイスとお励ましを頂戴した飯森、柴崎両先生、ガバナー事務局の佐々木、蛇口、西村の3氏、そして米山記念館の市川さんに心からお礼を申し上げ結びと致します。

「満州問題について」より抜粋

井坂ガバナーから国際ロータリー会長への手紙

1931年11月6日、横浜発。

イギリス、ロンドン、ラッセルホテル。RI会長シドニー・パスコール宛

10月16日の私の手紙に関し、国際平和と親善の問題に関して、私の地区内のさまざまなロータリー・クラブの見解を入手したことをお伝えしておきます。 その結果、米山パスト・ガバナーも私もまったく同感でありますが、次のような結論に達しました。

日本人は皆、日中関係を深く残念に思っており、正義と公正の精神に基づき、一刻も早く平穏に解決したいと願ってはいるものの、現在の中国の状況を鑑みると、思うような解決はほとんど望めないことを非常に残念に思っております。

真の紛争の原因は、さまざまな契約や条約の規定に基づいており、世界の列強すべてがそのように認識している通り、満州における我が国の全ての条約上の権利と利益を、中国側が否定しようとしたことにあります。この試みを実行せんが為、中国人達はあらゆる類の無法行為や暴挙に及んでいます。

彼等は、日本人居住者に対する嫌がらせや、日本の事業を妨害するために利用できるのであれば、何をしようが卑劣で残酷で野蛮な事は一切ないと考えているようです。加害者は個人であれ、不真面目な大衆や潔癖症の集団であれ、政府はそうした嫌がらせの動きを抑制しないばかりか、むしろ容認し、あるいは実際に援助することによって、それを助長してさえおります。(中略)

ロータリー活動の正常な発展の為、ロータリー・クラブは政治的な問題に立ち入ることは避けるべきと考えますが、一ロータリアンとして、現在の日中問題が一日も早く解決することを切に願っております。この関連で、両国のロータリアンがそのような解決のために協力する機会を設けることを心より望んでおります。もしくは、日本のロータリアンが解決のために協力出来得る適切な手段があれば、私達は喜んで協力する所存であります。 中国には僅かなロータリー・クラブしかなく、その会員はほとんどが外国人であり、中国のロータリアンの中に、我々と意を同じくする会員、そして大胆さをも持った人がいるかどうかは甚だ疑問です。(中略)

実際、日本のロータリアンに協力したいと心の中では思っている中国のロータリアンも、皆無ではないでしょうが、このような冷酷な扇動者の機嫌を損ねるような人がいるでしょうか?これに関しては、上海ロータリー・クラブ会長のフォン・セック博士のケースを紹介する我儘をお許し頂ければと存じます。彼は数年前にここに滞在していた際、何度かお会いする機会がありましたが、彼は実に洗練された紳士であるのみならず、素晴らしき(優れた)ロータリアンであることには何の疑いの余地はありません。本部から私宛に届いた手紙で、彼が母国に帰る途中に横浜に寄港することを知った時、私は彼の日本滞在を心待ちにし、親交を深めるだけでなく、真のロータリアンとして、両国のロータリー理念の推進のために様々な関連事項を話し合おうと思っていました。 アメリカから汽船が来るたびに、汽船いる筈の彼に向け、歓迎の無線を送り、同時にいつ会えるかを尋ねたのですが、汽船からの無線の返事は「彼は乗船しておりません」という内容で、心底がっかりしたものでした。 結局、日米関係の現況を考えると、彼は、今我々に会うのは得策でないと判断したのだろうと推測した次第です。(中略)

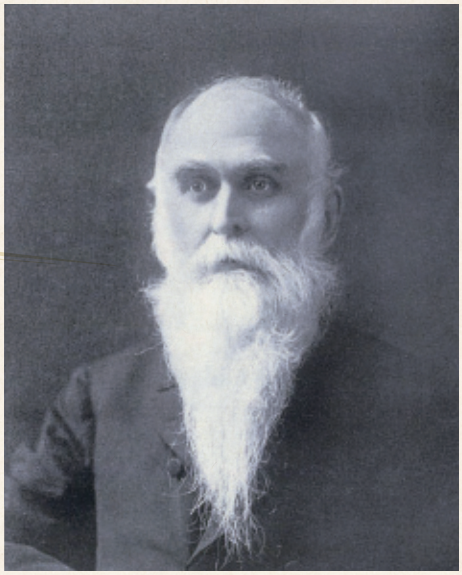
このように、電報に託された貴殿の願いは、その精神は全面的に支持され、またその動機も同胞から高く評価されてはおるものの、現状では、どのように実行すべきかと思うと、実は途方に暮れております。 余程慎重かつ巧妙に対処しなければ、あらゆる試みが徒労に終わるばかりか、貴殿の期待とは真逆の結果をもたらす恐れがあり、当分の間、この問題を取り上げることは出来ないと判断した次第です。

しかし、このような状況がいつまでも続くことは、私たちにとって深い遺憾の念を抱かせるものです。中国のロータリアンも同じ思いであろうと思いますが、一日も早く、皆様、そして我等の崇高な願いを実現するために全力を尽くす機会が訪れますことを切に願っております。その折には、更なるご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

ロータリーの思いを共に

第70地区国際ガバナー　井坂　　孝

桑田権平と『來曼先生小傳』



Benj: Smith Lyman

ベンジャミン・S・ライマン（1835−1920）

明治2年、明治政府は、諸外国の先進技術・分解導入のため北海道開拓使を設置し、78人の外国人技師や専門家を招聘した。このうち48人はアメリカからやってきた。明治3年開拓次官となった黒田清隆は、明治4年米国農務省長官ホーレス・ケプロン、明治6年地質測量のベンジャミン・S・ライマン、農業牧畜のエドウィン・ダン、明治9年人材育成を目指した高等教育のウィリアム・Sクラークらを招聘した。これら指導者は、献身的に仕事や仕事以外の事に取り組んだ。黒田はその後開拓使廃止直前の明治15年まで責任者として働き、彼等が北海道開拓の基礎を築いた。

1835年マサチューセッツ州ノーサンプトンに生れたベンジャミン・S・ライマンは、ハーバード大学終了後、ドイツのフライベルク鉱山学校（現在のフライベルク工科大学）で鉱山学を学んだ。ペンシルベニア州、インドなどの石油調査を終え、1872（明治5）年来日。1876年まで北海道の地質調査に従事した。その後、工部省の依頼で日本各地の石炭・石油地質調査にあたった。1891年に帰国するまで日本地質学に貢献し、日本人助手も育てた。明治期の産業革命の主要なエネルギー源であった石炭の、北海道における炭鉱発見と開発は画期的であった。ライマンはその学識・趣味も広く、その興味は文学・哲学・美術・民俗にまで及んだ。さらに日本文化や文学にも関心を寄せ日本の資料・文献を収集。自室には日本の書画を飾り、お茶も嗜んだ。

ライマンと弟子たち

ライマンの最期の助手の一人であった伯父桑田智明が、1884年に北海道炭鉱の測量図を完成させるために渡米することになり、同道することになったのが13歳の桑田権平であった。権平はライマンの紹介でエリザベス・クラーク女史に預けられ、ノーザンプトン・ハイスクールに入学。その後ウースター工科大学に入学した。9年間留学生活を送ったのち1893年に帰国。大阪砲兵工廠、川崎造船所、大阪瓦斯、日本染料製造株式会社を経て、1918年合資会社日本スピンドル製造所を大阪市に立ち上げ、初の国産紡績用ピンドル・リングの製造を始めた。そして中国への販路も広げ、大日本紡績や三井物産の援助を得た。こうして1920年代後半にはスピンドルの国内専門メーカーとしてのフロントランナーの地位を確立した。

桑田権平（1870〜1949）

そんな権平が「先生の斡旋によりクラーク女史の宅に預けられ、幸いに勉学上にも修養上にも良い教訓を受けたので、私にとっても一大恩人として敬慕の念最も深きものがある。」(『來曼先生小傳』より)として『來曼先生小傳』を上梓し、巻末には伯父桑田智明が「遺構として先生についての覚書を残した」ものを掲載した。この本の序文を米山梅吉が書いている。

札幌に遊び、遊覧バスに乗じて同市の内外を見物したものは、妙齢の美しい所謂バス・ガールの流暢なる説明によりて、北海道開拓當時の歴史が映出され、殊に彼の有名なる植物園又は大學の庭内に導かれ、遂にはクラーク博士の功勞に及び、其の任を了して米國に歸らんとするの日、當時の學生達が雪中馬を駢べて同博士を遠く幾里の郊外に送り、博士も別れを惜んでBoys be ambiciousの言葉を殘して去つたことまで聽かされては、眞に感に堪へないものがある。明治政府の初期に外國より招聘された人物、特に北海道開拓使の米國より聘用した學者、技術家の中には多くの優れた人士のあつたことは、本書の初めに書かれた通りである。

著者桑田君は、少年の時夙く米國に渡り、留學多年に及んだので、其の歸朝の時分には日本語の使用も完全ならず、字を用ひ文を綴ることは勿論不得意で、變なことを云つて友人を失笑せしめたものであつた。然るに君の好學なる、斷えず文辭に親しみ、又た伯父智明翁と來曼先生との因縁から、深く先生に親炙して其の人格を敬慕すること厚く、常に先生の思出を語つて止まないのである。斯くて此度遂に桑田君自身にとりてのみならず、我邦の爲めの恩人と謂つべき此の先生の小傳を著はすに至つた。

桑田君が其の仕事の關係から、歐米への渡航は實に頻繁であつて、此春も亦た、一寸行つて來ると云つて飄然巴里に向つた。其の出發前私に托するに本書の校閲及び出版の事を以てしたのであるが、私は簡單に之を引受けて置いたけれども、知らず識らずの間に懶惰時を費やし、早くも同君歸朝の日の迫るに及んで、辛うじて之を果すことが出來た。若し本書の出版に粗漏の點があれば、其れは私の不注意からで著者の責ではない。本書の姉妹篇とも云ふべき英文のLife of Benjamin Smith Lymanも出たのであるが、之は必ずしも本書の反譯といふのでもなく、隨つて其の記述方も同調ではない、兩書を併せ讀む人は此事を諒とされたい。

私は此書の校閲に際し來曼先生門下の高足坂一太郎氏の後で、今現に化學工業に從事されてゐる同利憲君、併に同門の一人山内德三郎氏に從ひ來曼先生の遺風に學んだ大島二郎氏の後で、帝國大學燃料研究の專門家たる同義清君に負へる所大なりしことを、此に銘記するものである。著者に向つては、本書が獨り來曼先生の小傳であるのみでなく、廣く讀者を益し、特に年若き人々のために興味少からず、將又米國に於てこの英文篇を手にして喜ぶ人の多かるべきを思ひ、此の出版を祝福するものである。

昭和十二年八月

米山梅吉

桑田は、繊維関係の研究活動に対する支援活動も行い、桑田の寄附が主となり1935(昭和10)年大阪帝国大学内に繊維科学研究所が設立された。この研究所には三井報恩会も寄附をしており、三井物産から理事も輩出されている。また桑田は、有効微生物科学研究所設立や、大阪帝大微生物病研究所に対して研究資金の寄附、さらには海軍航空技術奨励費15万円の献金など、フィランソロピー活動を積極的に行った。米山(1868年生)と桑田権平(1870年生)は年齢も近く、アメリカ留学経験を持つ。共に企業の経営人としてだけでなく、個人そして会社として社会への貢献を考えた活動に先人の熱い思いが宿る。

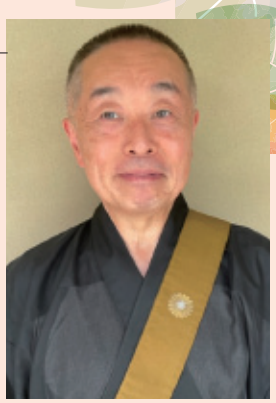
お知らせ 米山梅吉記念館 秋季例祭

[日時]9月17日(土)　14時
講演開始時間　14時30分～
[場所]米山梅吉記念館ホール

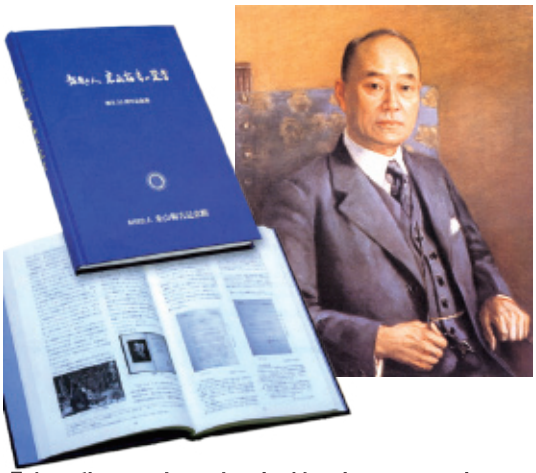
秋季例祭講演

演題　日本の異文化交流／鎖国から開国へ
講師　下田了仙寺住職　松 井 大 英（下田RC）

松井大英（まつい だいえい） プロフィール



昭和32年6月29日生
中央大学法学部法律学科卒
ハワイ大学大学院修士課程修了
（専攻は宗教社会学）
大正大学大学院修士課程修了
（専攻は宗教社会学）
立正大学講師を経て
現在　静岡県下田市了仙寺住職
下田日米協会会長
下田ニューポートクラブ顧問
下田日露協会理事
立正大学常任理事
日蓮宗宗会議員



『超我の人 米山梅吉の跫音』

創立 35 周年の記念出版。ロータリアン、教育者、社会奉仕者としての米山梅吉研究を集大成した最良の一冊。「米山梅吉の生涯や業績」「ロータリーとのかかわり」「記念館の歴史」など、詳細な解説がなされている。資料編には、講演、月報やラジオ放送なども掲載。館所蔵の図書目録、年表なども網羅されている。

㈶米山梅吉記念館編集・発行
B5 判　260 頁　2,500 円(税込)

米山梅吉俳句集『藍壺俳句』

創立 40 周年事業として、米山梅吉翁の俳句を整理し、翁が未済のままとした俳句集をまとめ、記念館所蔵の草稿と思われる『藍壺俳句』を精査、見直すとともに、翁が所属した句会、白人会（大正 5 年 11 月、巌谷小波主宰）での句の採取を手掛け、米山梅吉俳句集『藍壺俳句』として刊行。

㈶米山梅吉記念館編集・発行
A5 判　76 頁　1,000 円(税込)

購入ご希望の方は、書名、数量、お名前、連絡先をお知らせください。
商品が到着しましたら同封の振込用紙にて代金をお支払いください。
商品代金の他に、別途送料をご負担ください。

お申し込みは　公益財団法人 米山梅吉記念館
TEL:055-986-2946　FAX:055-989-5101

米山梅吉記念館のご案内

新幹線三島駅よりタクシー5分
東名沼津ICより15分

[開館時間]午前10時～午後4時
[休館日]●月曜日
●12月28日～1月4日
●整理のための休館日(5月･8月の特定日)

米山梅吉記念館　館報
Vol.40 秋号

■発行日／令和4年8月20日　■発行者／公益財団法人 米山梅吉記念館　理事長 松村 友吉
〒411-0941 静岡県駿東郡長泉町上土狩346-1　TEL(055)986-2946　FAX(055)989-5101
URL https://yoneyama-umekichi.jp　E-mail yumh@ai.tnc.ne.jp

THE YONEYAMA UMEKICHI MEMORIAL HALL REPORT